

(様式)

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 25 年 10 月 30 日

1. 渡航者			
氏名	野村 理朗	採択年度	平成 25 年度
部局	教育学研究科	電話	
職名	准教授	メール	
研究課題名	Psychological research on the interplay of cultural and genetic influences on cognitive function		
海外渡航期間	平成 25 年 7 月 4 日～ 平成 25 年 9 月 29 日		
2. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：アメリカ合衆国 大学等研究機関名：ノース・ウェスタン大学 心理学部 研究室名等：社会感情文化神経科学 研究室 受入研究者名：ジョアン・チャオ 准教授		
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先： University of Wisconsin-Milwaukee, University of Wisconsin-Madison, 目的：資料収集 期間：8/9-8/10 出張先： University of Illinois-Springfield 目的：資料収集 期間：8/14-8/15		
3. ジョン万プログラムによる成果			
以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。 ページ数については増加してもかまいません。			
国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)	本プログラムによる渡航期間は3か月未満という比較的短期のものであった。しかしながら、帰国後1か月程度の現段階において、渡航中に議論した実験計画に基づいて、日米の両国において実験を実施、データを蓄積している。ここで得られたデータを解析し、成果が得られ次第、国際学術雑誌に論文を投稿の予定である。		

<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施</p> <p>(国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>本国際共同研究は、日本在住および米国在住の日本人を対象に、認知心理学的な方法、遺伝子科学的方法によりアプローチすることを通じて、認知機能の個人差、およびその発現のメカニズムに関し革新的知見を得ることを目的としたものである。具体的には、1) 生育・現住が日本の日本人男性と、2) 生育・現住がアメリカにある日本人男性とを対象にした検討している。本プログラムにより、行動の制御過程を検討するための日米両国における実験系が確立し、実験データを蓄積している。ここで確立した方法論を基盤として次に実施する共感性に関わる研究課題について、アメリカ国立衛生研究所 (NIH: National Institutes of Health) において募集される外部資金に応募予定である。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化</p> <p>(参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>その他の項目で示したように三カ月という滞在期間中は実験の立ち上げ、および実施に注力するとともに、ノースウェスタン大学心理学部の学部長 (ダン・マクアダムス教授) との交流をはじめとして、同学部に在籍する教員とのネットワークを構築・深化した。さらに、心理学および神経科学領域において世界の第一線をけん引する、シカゴ大学のジャン・デセティ教授 (国際社会神経科学会・会長) との会合をもち、互いの研究領域・関心を共有するとともに、共同研究の計画を構想、議論した。</p>
<p>在外研究経験による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た研究の展開方法、研究室の運営方法、教育方針・人材育成方法等)</p>	<p>滞在先の研究室は、これを主催するジョアン・チャオ博士によって運営されるとともに、Research Assistant (RA) がこれに積極的に関わっていることが印象的であった。米国における RA は、主に大学院生、学部生を対象に大学の経費で雇用するものであり、日本でのそれと違って、おおよそ研究の補助に特化したものである。すなわち RA は実験機材のセットアップ、データ採取、解析等のルーティンワークについて、一定のトレーニングを受けた後、主体的に実験を推進している。また、教育方針・人材育成方法においては、サマープログラムの有効活用が印象的であった。すなわち、研究室に在籍する大学院生、学部生を海外の研究室に送り出すとともに、海外の学生を受け入れ、そうした交流の中で人材を育成するとともに、研究室が活性化する過程が確認された。</p>
<p>フィールド研究の進展</p> <p>(渡航先国で実施した実地調査や文献調査等の内容)</p>	<p>本研究課題においては特にフィールド研究を目的としておらず、実施していない。しかしながら、滞在中の出張先において、有益な研究論文・資料を入手した。</p>